

平成 30 年度第 3 回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

平成 31 年 2 月 27 日（水） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 25 分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

（1）委員（10名）

菊池一英委員、阿部久幸委員、市川浜委員、門馬優子委員、高橋則子委員、
佐々木さつき委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、
白藤祐三委員

（2）事務局（8名）

市川生涯学習部長、藤原生涯学習課長、梅原花巻図書館長、
久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長、盛田石鳥谷図書館長、
菊池東和図書館長、伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

4 欠席者

なし

5 傍聴人

4 名

6 議題等（議事録）

◎会議成立の報告（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）

- ・委員10名中10名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

1 開会（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）

2 あいさつ（坂本会長）

皆さまおはようございます。年度末のお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。有意義な会議にしたいと思います。活発なご発言を

どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 題（図書館協議会規則第6条により、会長が議長となる）

（1）平成30年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

平成30年度花巻市立図書館の事業実施状況について、（平成31年1月末までの実施状況を）花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：伊藤係長、大迫：久保田館長、石鳥谷：盛田館長、東和：菊池館長

（質 疑）

（○坂本会長）

それでは、今、各図書館からご説明いただいた事柄に関して、ご質問をいただきたいと思います。この席にいて発言するのも何ですが、花巻図書館と石鳥谷図書館で本の福袋を配布したということで、佐藤委員さんも新聞に寄稿されてしまったので、読ませていただきましたが、その評判はどうだったのか、分かる範囲で教えていただければと思います。

（○伊藤花巻図書館業務係長）

花巻図書館では、かなりご好評をいただきました。福袋は大人用と子ども用とに分けてセットし、こども室の入り口前にコーナーを設けて貸し出しましたが、「お正月に食べ過ぎたあなたへ」などお正月にちなんだものや、「受験生のために」というものなど、テーマを決めて福袋を作りましたので、皆さんに楽しんで参加いただいたという感想を持っております。

（○黒澤石鳥谷図書館主査）

石鳥谷図書館でもかなりご好評をいただきまして、たくさんの方に借りていただくことができました。今回は個数の制限を設けずに行ったこともあり、子どもさんがすぐに1袋借りて家に帰り、また次の本を借りたいということで、2回目を借りにくる方もいらっしゃいました。石鳥谷図書館の福袋の種類としては、小さい子ども向けの読み聞かせ用の絵本と、あとは小学生を対象とした本、中学生を対象とした本、ティーンズ以上大人向けの本ということで4種類の福袋を準備しました。また、袋の中にプレゼントとして、アニメージュや子ども向けの本、大人の料理の本など、定期購読している雑誌の付録で取っておいたものを一緒に入れました。

（○坂本会長）

工夫ですね。今度はぜひ皆さんにも借りていただきたいと思います。

（○白藤委員）

石鳥谷図書館の資料8ページ、「実はすごい！石鳥谷の匠展」の来館者がかなり多いということで、同展でいろいろなジャンルの方々がお話ししたと思います

が、こういったことで図書館に足を運ぶ人が多いということは、とても良いことだと思い感心しました。それから、今まではあまり気がつかなかったのですが、同じ石鳥谷図書館の資料10ページにある「社会科施設見学対応」で、市内小学校5校に生活科学習ということで、施設見学をしてもらっていますが、こういったことも図書館の存在や図書館の資料内容などを子どもたちが知る機会ができて、とても良いことだと思いますので、これは全図書館で毎年の活動として取り組んでもらえばいいかなと思っています。それと同時に「自分たちの学校の学校図書館を見直す」というようなことにつながれば、なおさら良いと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございます。他にございませんか。

(○菊池委員)

東和図書館をお願いします。「古本市」を企画されているようですが、これは、古本市ですから、販売するのでしょうか。

(○菊池東和図書館長)

はい。東和図書館の場合、「古本市」は東和図書館結いの会が主催しております。販売という形をとっていただき、その販売の売り上げで図書館に本を寄贈していただいております。

(○菊池委員)

ありがとうございます。全図書館に質問ですが、おそらく図書を整理する段階で、廃棄本がでてくると思います。その廃棄本の行方といいますか、処理をどのようになさっているのかをお聞きしたいと思います。実は、湯口小学校で図書室の移動整理などをする中で、「やっぱり廃棄にしよう」という本が結構でてくるのですが、それをどうしようかということで、今悩んでいるところです。市立図書館の廃棄本の処理の仕方が参考になるかと思い、お聞きしたいと思います。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

花巻市立図書館では、石鳥谷図書館と大迫図書館で本のリサイクルを行っておりますので、花巻図書館でも除籍の本をそちらにお願いしています。あとは東和図書館では、リサイクルとは別に「古本市」を行っております。

除籍した本のうち、石鳥谷図書館と大迫図書館のリサイクルにお願いできないような、状態が悪くて修繕ができないような本は、リサイクル業者さんの方へお願いして回収していただいております。

(○菊池委員)

ありがとうございます。例えば、どこの学校でもそうだと思いますが、学校図書館の中で除籍された本を市立図書館に引き取ってもらい、古本市の方に出して

もらうようなことも可能なのでしょうか。

(○熊谷委員)

古本市にかかわっていらっしゃる委員さんが、こちらにいらっしゃるの、お話ししていただいてよろしいでしょうか。

(○坂本会長)

では、門馬委員さんお願いします。

(○門馬委員)

結いの会のメンバーでもありますので、古本市を主催しております。古本は、10円から100円という幅で販売しています。皆さんから読み古した本を無料でいただいているので、古い本は10円で高くても100円という値段設定で、かなり皆さんに喜んでいただいておりますが、値段がかなり安くてもそれでも残る本はあり、毎年同じ本が残るという現象が起きています。図書館から借りている限られたスペースでは、もうあふれてしまいますので、私たちもその処理にかなり苦慮しております。

(○坂本会長)

そんなに集まるのですか。

(○門馬委員)

集まります。噂を聞きつけて、毎年どんどん増えます。豪華製本の物や雑誌類はお断わりしているのですが、それでも集まります。ジュニアの本などは毎年同じものが追加される感じで、出品しても残ってしまう本については、業者に引き取っていただくことも考えたのですが、それもなかなか限界がありまして、ただで持っていけるフリーコーナーを作り、ちょっと傷んだものなどは、自由に持っていっていただいております。それでも残ってしまった本は、(東和)地域内の作業所をお願いします。そこで、書生さんたちの作業(職業体験)として持っていっていただいて、どんな本でもOKということでしたので、最終手段として(書生さんの)仕事の間として持っていっていただくことを始めました。最終的に無駄なくやればいいなという希望を持ってやっております。

(○坂本会長)

粗末にしたくないですね、本ですからね。最終的には、地域内の作業所「まほろば」さんということです。ご協力いただいて。

(○菊池東和図書館長)

学校さんの本には、バーコードや学校のスタンプがついていると思いますが、それを外していただければ、図書館でも古本市などに活用できます。ちょっと手間ですが、そこまでやっていただければありがたいです。

(○坂本会長)

ありがとうございます。ノウハウも教えていただきました。他にはございませんでしょうか。

(○佐藤委員)

福袋の件ですが、私は図書館の入り口にお知らせが貼ってあるのを見て前もってそのことを知り、それを楽しみに4日の日に図書館に行き、借りてすぐに日報の“番茶煎茶”に投稿して、12日頃に掲載になったのですが、新聞記事を読んで「知らなかった。福袋を知っていたら、自分も借りた。」と言ってくださった方もあったので、私は図書館の貼り紙を見て知ったのですが、それ以外の広告やお知らせを今回はしなかったように思われますので、来年はそういうことをするともっと多く利用されるのではないかなと思いました。

(○坂本会長)

広報にでも大々的に上げてもらいましょうか。

(○梅原花巻図書館長)

福袋は、今回初めて花巻図書館と石鳥谷図書館で行ったのですが、花巻図書館のことを申し上げますと、初めてのため、どのくらいのお客様がいらっしゃるかちょっと想像が付きませんでした。また、スペースがあまり広くなく、たくさん福袋を置けませんでしたので、今回はまず試験的に、普段利用してくださるお客様方に、12月の半ば過ぎからポスターなどで周知したうえで、どのくらいのお客様がいらっちゃって、スタッフが対応できるかどうかを確認しながら実施したところです。そのため、事前の告知にそれほど力を入れなかったのですが、実際にやってみますと、最初の日の中に福袋はほとんどなくなってしまいますが、翌日に少し追加の福袋を作ることができましたし、また、福袋が早くなくなっても、それほど苦情はありませんでしたので、来年のお正月、次回はもう少しホームページや広報などで広く告知しながら行えるというような感触を持ったところです。次回はもう少しPRしたいと思っております。

(○坂本会長)

はい、よろしくお願いします。他にはございませんでしょうか。

(○門馬委員)

石鳥谷図書館に質問ですが、ずっと実績のある「実はすごい！石鳥谷の匠展」をいつも感心して拝見しているのですが、資料に書かれている5人の方たちは実際に図書館にいらして講演をされたのですか。シンガーソングライターの方は、実際に演じられたと思いますが、お話しを聞くという機会もあったのですか。

(○盛田石鳥谷図書館長)

はい。優斗さんにつきましては、展示物となりますとどうしてもコンサートの

写真ぐらいしかありませんし、せっかくの機会ですから、ミニコンサートということで企画いたしました。

優斗さん以外の方につきましては、基本的には図書館から取材に行き、こちら側からいろいろ聞いたことを展示しておりますし、それに関連する図書を展示いたします。あと、本人がお薦めする本も展示し、それを貸し出しできるということにしております。池野恋さんは特別ですから、関連する本人が描いた漫画本を並べましたが、その他の方については、例えば和菓子職人の方ですと、和菓子を作る日は何時に起きているとか一日の仕事の内容など、取材した内容をそのままパネルにいたしましたし、関連する和菓子の本を並べさせていただいたり、実際の商品の写真をデジカメで撮影し、こういう作（商）品がありますというように紹介したり、基本的にはご本人が許す範囲で取材をした中身をご紹介します。

現在展示している書道教室の藤原さんにつきましては、昔書いた立派な作品がたくさんありますが、大きな作品なので、それを写真に撮らせていただいて、コンパクトにして展示するという形にしております。

展示方法は、ケースバイケースだと思いますし、ご本人がよろしいのであれば来ていただいて、もちろんお話しをしていただくのが1番かなとは思いますが、池野恋さんにもそのような趣旨のお願いをしましたが、せいぜい石鳥谷図書館用に1枚のイラストを書いていただけたくらいで、それを展示しているというのが、できる範囲なのかなと思います。今後とも匠の方々をピックアップし了承を得たうえで、取材をしていくというスタンスは変わりませんし、展示するスペースもそんなにあるわけではありませんで、（現在）あるスペースを活用して実施するということになると思います。原則としては、関連する書籍も一緒に展示し、それを皆さまにお貸しする。それから、地元のこういう技を持った方を紹介していきますというのが、考え方の一つになっておりますので、ケースバイケースだということでご理解いただければと思います。

（○門馬委員）

ちょっと心配したのは、シンガーソングライターの方といいますか音楽的な企画をしますと、どんな館でもかなり集客します。集客数がぐっと上がるものですから、例えばそういう方への謝礼のようなものがあるのかなという心配をしたものですから。（盛田石鳥谷図書館長：優斗さんのご好意で。）

（○坂本会長）

他はございませんでしょうか。それでは、次に移ってよろしいでしょうか。それでは2番目に移らせていただきます。

(2) 平成31年度花巻市立図書館運営方針(案)について

平成31年度花巻市立図書館運営方針(案)、基本方針、重点目標を梅原花巻図書館館長が説明後、各館の重点事項、事業概要の説明を花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：梅原館長、伊藤係長、大迫：久保田館長、石鳥谷：盛田館長、東和：菊池館長

(質 疑)

(○坂本会長)

平成31年度の運営方針(案)について、ご説明いただきました。これに対してご質問、それからご意見がございましたならば、お願いいたします。

(○白藤委員)

運営計画には直接関係ないのですが、文化会館で学校図書館協議会の研修会がありました。講師が西和賀町教育長の佐藤敦士先生。佐藤先生のお話しは、4、5年ぐらい前からいろいろな場所で聞く機会がありまして、佐藤先生は宮古中学校の副校長時代から中高生のボランティア活動を指導されていて、それ以外にも宮古で災害復旧など子どもたちから、幅広く自分でボランティア活動をされており、私は先生を尊敬しているのですが、一昨年ですか、西和賀町の教育長に就任されて、早速、小中学生を対象にボランティア活動を指導・養成するための事業を、教育委員会としての事業になりますが、始められました。私がいつも気になるのは、中高生の読書活動はどこでどのような人たちが力を入れているのかということです。佐藤教育長さんは、自分が率先して、そういう活動をしているという点において本当に感心しています。図書館自体は、そこまでの取り組みは難しいと思いますが、せめて学校図書館協議会や教育委員会自体の事業があれば、連携して中高生の読書活動、あるいはボランティア活動に対する啓発をしてほしい。

あともう一つは、東日本大震災から8年目、地道にでもこの震災資料を見てもらうよう、あるいはどの程度各地域が復興しているか、そういった資料を展示し、大震災への意識をいつまでも持ってもらうような、関心を持ってもらうような取り組みをしていただきたい、それぞれ学校でもなさっていると思いますが、地道にそういった活動を図書館でも取り組んでいただきたい。

(○坂本会長)

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

(○佐藤委員)

子どもの読書活動についてですが、私は石鳥谷図書館の「わくわくタイム」というところで、娘と一緒に「母娘草」というグループ名で読み聞かせボランティ

アをしていて、今年で4年目が終わるところです。振り返ってみますと、最初の頃は幼稚園児や小学校低学年のお子さんが主だったのですが、最近はブックスタートやブックスタートプラスの活動が功を奏しているようで、赤ちゃんや小さいお子さんを連れたお母さんがいらっしゃるようになって、私たちもボランティアとして、そういうお子さんに相応しい本を紹介できるように勉強していかなければいけないというように思っているところです。

ある日のことですが、平日の図書館に行きましたら、1歳ぐらいのお子さんを連れた若いお母さんが、児童室でお子さんに本を読んであげようとして、「座って。座って。」って、こう怒った口調で、お子さんが聞きたい気分ではないので抵抗していたんです。そしたらお母さんが、「もう、せっかく読んであげようと思っているのに」と不機嫌になってしまって、「分かりました。帰ります。」とプリプリして帰ってしまわれたんですよね。その場面を見て、読み聞かせは絵本を介して、子どもとお母さんがコミュニケーションをするという目的で、そのお母さんは本を読んであげることが大事だということをよく理解しているし、勉強している若いお母さんだと思いますが、そのお子さんが今聞きたい状況かどうか、というところが見過ごされているなというように思われ、何かお互いに不幸だなと、その場面を見て思いました。読み聞かせは良いことで本当に大事なのですが、そういうところは怒らないで、「今は聞きたくないんだね。」と言って、「家に帰ろうか。じゃあお昼寝する前に読もうか。」とか「夜寝る前に読もうか。」とかというようなことを言っても良い、ということを気づかせてあげるような取り組みも必要ではないかと感じました。「読み聞かせはいいよ。是非やってね」という一方向に終わってしまうと、不愉快な親子が増えてしまいそうな気がしているというのが私の感想です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。そういう親子もいるんですね。何か声をかけようにも、かけにくいですね。他にございませんでしょうか。

(○白藤委員)

さっき言った学校図書館協議会の研修会の部分ですね。メディア向けにこういうチラシがあったんです。一般社団法人日本小児科医会、『スマホに子守をさせないで』という幼児を持っているお母さん方に対するチラシですが、やはり図書館でもこういうとこまで幅広く啓発していかないといけない。

(○坂本会長)

そのことについては、図書館でも研修会をやりました。矢沢のお医者さん、佐藤（寧）先生に来ていただいて、その中でその話しがありました。2年ぐらい前だったでしょうか、伺ったことがあります。文化会館で夜間に行ったという記憶

ですが、どうでしょう。

(○伊藤花巻図書館業務係長)

はい、「みんなでライブラリー」の前の事業である「子ども読書クラブ」の時に、佐藤（寧）先生にスマホやネットの怖さ、注意すべきところなどを勉強させていただいたことがあります。「子ども読書クラブ」では、佐藤（敦士）先生もいらっしゃいましたし、お医者さんの佐藤（寧）先生にもお話を伺いました。

(○坂本会長)

とてもいいお話しで、矢沢小学校でも行ったそうです。高木が丘クリニックの佐藤（寧）先生。いろいろな学校に出前講座で行っていただければいいのかなと思うくらい、聞いていて楽しかったです。とても内容に魅かれて聞き入りました。「これじゃあやっぱり、自覚してきちんとやらなければいけないな」と思ったような感じです。ですから、各学校に出前講座で行ってくださればいいなと思いました。

他にはございませんでしょうか。市川委員さん、いかがですか。

(○市川委員)

実は先日、岩手県の「読書活動推進の集い」に初めて参加しました。その時に私が思ったことは、最後に発表された平泉町のお父さんたちの読み聞かせのグループのお話を最後まで聞きたかったのですが、どうしても早めに帰らなければいなくて途中で帰ってしまいましたが、普通読み聞かせなどの活動は、どちらかというとお母さんたち女性の方が多いのですが、発表されてたようなこと

（お父さんたちの読み聞かせ）ができないのかなと思いました。実は私、青少年市民会議の中で、前々から皆さん方に「読み聞かせは小さい時から子どもたちに大事なのだよ」ということを聞いて、自分でもそう感じていますので、この場にもおいでの各読み聞かせのグループの方々のご協力をいただいて、保育園や幼稚園へ1年に1回ですが、そういう読み聞かせ活動をずっと続けてきました。ご協力をいただいた方、皆さんすべて女性の方ばかりですが、いつも本当にありがたいと思っております。この活動はずっと続けていければと思っているのですが、それにつけても、「おらたち男もできないのかな」と、そういうことを常に思っています。そういう機会を作っていただいているとは思いますが、気がつかなくなったり、都合が悪かったりして出れないでしまっています。是非そういう機会を作っていただき、お母さんばかりでなく、お父さんにも積極的に取り組んでもらえば、これはもっと子どもたちの読書活動を進めるためにいいのかなということを感じました。

(○坂本会長)

白藤委員さんが実践しています。そして、お父さんの声というのは、子どもた

ちには新鮮に聞こえるようです。本当に“とつとつ”と読まれるのですが、聞き入ります。男性の声の魅力というのでしょうか。すばらしいです。

阿部委員さん、いかがでしょう。

(○阿部委員)

先ほどからの報告や、来年度の運営方針などを聞いていて、本当にすごい企画力というか集客のための企画力にですね、感心しておりました。私は大迫中学校ですが、職場体験などでもお世話になっております。来年度もいろいろな場面でお世話になるのではないかと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。菊池委員さん、いかがですか。

(○菊池委員)

はい。学校図書館協議会にお出でいただきまして、ありがとうございました。31年度も研修会を企画しますが、今、阿部委員もおっしゃいましたが、市立図書館の企画力ですが、参考にする部分は参考にしながら、それこそ啓蒙を図っていきたいと思いますし、市立図書館の協議会委員さんにもご案内を差し上げたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。高橋委員さん、いかがですか。

(○高橋委員)

大変素晴らしい企画力、計画力、こういったものには、私も感心しました。こんなにたくさんやっていたのに、このうちいくつ参加しただろうかと、今しるしをつけてみましたが、本当にたくさんの行事をやっているのに、なかなか参加できていないということ、やはり私のように委員をやりながらでさえもそういった状態ですので、一般の方々はなかなか難しいかなあと思っておりました。それから、31年度の計画がでてきましたが、一つ年代が変わる、平成から何になるか分かりませんが、そういった新しい幕開けの何かここに企画が……何処かに出てくれば、図書館としてもいいかなあと思いました。平成の振り返りでもいいですし、何か図書館ならではの企画があったなら、いいかなあと思って企画を今日見ておりました。

各図書館のそれぞれの特色ある計画というのでしょうか。こういったものが、非常に地域に合ったものだし、また長いことどの地域でも企画されたものを継続しているということ、こういったことを非常に感心して、今日は聞かせていただきました。ありがとうございました。

(○坂本会長)

ありがとうございます。佐々木委員さん、お願いいたします。

(○佐々木委員)

他の委員さんがおっしゃられるように、貸し出し業務以外にこんなに盛りだくさんの行事を計画・企画して、そしてこなしていることは、さぞかし大変かと思います。ご苦労さまです。大変なのを承知で、要望を一つよろしいでしょうか。

読書おもいで帳の利用促進のところですが、私は毎月、ブックスタートで読書おもいで帳を参加したお母さん方に「こういうものがありますよ」ということでお知らせをしています。毎回、中が空の（印字していない）読書おもいで帳をお見せしているのですが、そこに何行かでも印字されていれば、「こういうふうになるんだな」というのが、すごく具体的に分かって、より紹介しやすいのではないかと思います。ただ、読書おもいで帳一冊にもお金がかかっていますし、見せるためだけに記帳するということもどうかと思いますので、そこは図書館側の判断にお任せしますので、可能な限り対応していただければ、今後それを利用していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。熊谷委員さん、お願いいたします。

(○熊谷委員)

花巻図書館も石鳥谷図書館、大迫図書館もきっといろいろな方たちを巻き込みながら、図書館の運営をしていらっしゃると思いますし、もちろん東和図書館では結いの会が、それからクリスマス会の時などは、読み聞かせとはちょっと離れているような団体の方たちもクリスマス会に出ていろいろなことをやりました。去年は私都合で出られなかったのですが、たくさんのお子さんたちが集まって……実は私違う方の劇団をやっているのですが、プレゼントをいくつ用意したかな…30…60…80ぐらい用意したのが、もう全部なくなってしまったくらいお子さんたちが来て、やっぱり図書館に入れば、周りはとてもいっぱい本があるので、「はあ（すごい）」という感じになるだろうと思いますし、図書館のクリスマス会をやってくださる方たちが、そういうことを企画しながら、いろいろな方たちを巻き込んで図書館運営をしていらっしゃる東和町は、私は東和町だから東和町しか分かりませんが、そのような状態で結構いろいろな方たちが来ると、本を読むということが身近になってくるのかなと思いますし、今東和小学校の方では、朝の読み聞かせをしているんですね。ボランティアの方たちが、各学年の各クラスにどなたかが入って、そして読み聞かせをしています。初めは15分ぐらい頂けたので、結構6年生も難しいものが読めたのですが、今は短くなってしまい

10分しかないので本を選ぶことが難しいというようなこともあります。そのようにしていると結構子どもたちはその朝の読み聞かせの時間をとても大切に、楽しみにして待っていてくれて、よそのおじさんとか、それからお婆さんとかおばさんとかが入っていく。お母さんもよそのお母さんたちが入るということで、すごくよくて、先日今学期最後の読み聞かせをしたのですが、子どもたちからお手紙をいただきました。そういう状況で結構先生方も頑張っていらっしゃるし、図書館でも頑張っていらっしゃるので、これからもこういうような状態をいろいろな人たちを巻き込みながら、図書館の運営をしていていただきたいなと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございます。白藤委員さん、お願いいたします。

(○白藤委員)

明日から議会が始まりますよね。図書館の関係の質問があるかどうか、市川部長さんからちょっとお聞きしたいと思いますが。

(○市川生涯学習部長)

はい。通告上は、阿部一男議員から「新しい図書館の整備について」という質問が一件ございます。それ一件です。あとは予算委員会がありますので、その中で質問等はあるかと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございます。新しい図書館については、「その他」のところでお話しいただきます。

それでは、さっき東和図書館から、東和小学校で読書おもいで帳に記帳できるということで、登録者が倍増したというように伺いました。そうであるなら、他の学校にもあればいいなと思います。

(○菊池東和図書館長)

東和地域は学校が1校なので、地域として、東和地域での人数を把握できます。ただ、他の地域だとそれぞれに何校か学校があるので、利用者の地域がなかなか限定できないというところがありますので。

(○坂本会長)

校長先生方にじゃんけんをしてもらって、勝った校長先生のところに置くという訳にはいかないですからね。でも、そのことは声を大にして言っていただければ、予算がつかなくもないかなと思いますので、各学校に置かれるのであれば学校の本を読んでも図書館の本を読んでも同じ読んだことには変わらないわけですから、やはり子どもたちに意欲を持たせ増やしたいと思うのでしたら、そのことは働きかけをお願いしたいなと思いました。

それでは、2番目の運営方針（案）についてはこれでよろしいでしょうか。

それでは、3番目のその他について、部長さんのほうからお願いいたします。

（3）その他

新花巻図書館について、市川生涯学習部長から説明。

（○市川生涯学習部長）

毎回新しい図書館について、少しずつではありますが、情報をお知らせしているような状況で、なかなか進まないというところもあるのですが、今日も前回11月のときにお話しした段階からの進み具合についてお話しをしたいと思います。前回の11月の協議会では、「花巻駅の東口あたりを第1候補にしたいということで検討には入っています」というお話しをしておりましたが、12月議会の大原議員からの一般質問の中で、具体的に「花巻駅の東口のＪＲ東日本が所有している土地を候補地の一つとして検討をしたいと思っている」ということを公表いたしました。

1月1日には、新図書館の整備推進プロジェクトチームを、花巻市で発足いたしまして、私が班長であります、生涯学習課を事務局といたしまして、建設部、財務部、図書館長もメンバーに入っております。各課から担当者などを入れてまして、プロジェクトチームをつくったところです。前回の協議会でもお話ししておりますが、まず、場所の選定をしながら、事業費や事業手法をどのようにしていくか、費用を安くするにはどうしたらいいか、それらを検討するために、各部門の担当を入れて検討しているという状況であります。

場所といたしましては、まずＪＲとの交渉というのがございます。ＪＲは概ね協力したいというような意向ではありますが、具体的に面積やどの場所かということはまだこれからというような状況になっております。また、事業手法につきましても前回お話ししておりましたが、つまり市が直接建てますとやはり数十億かかる予定ですので、全て市だけでできるのかというところもあります。紫波町の図書館は、民間が建設して町が図書館を購入したというような形ですが、そのような手法とかさまざまな公民連携手法というものがありますので、それらも含めて検討をしているところです。そのような状況で相手方もありますが、来年度早々には候補地を定めたいので、やはり土地の調査測量などもしていかなければならないと考えているところであります。

（○坂本会長）

一つ伺ってよろしいでしょうか。市民会議のとき、図書館は複合施設というような話しのまとまりになったような気がしておりますが、そのことに関してはどのようにお考えなのでしょうか。

(○市川生涯学習部長)

前の計画ですと、図書館とともに、例えば、先人のギャラリーや大ホール、子どもの施設を含めた建物を厚生病院跡地に建設するというような計画だったわけですが、これについては以前お話しをしていましたが、厚生病院跡地から有害物質が出てきたということで、子どもの施設をつくることはなかなか難しいということがありましたし、また、その場所で現在は土をすべて入れかえて花巻病院を建てているところですが、土をすべて入れかえることにも時間がかかるということで、厚生病院跡地に図書館を建てる話は白紙になりました。現段階では、図書館にホールを備えつけるかと言いますと、これも前にお話ししたように思いますが、非常に難しいと思っています。ホールは文化会館が既にありまして、文化会館の改修にも数億かかるという見込みがございます。文化会館をなくしてしまうことはやはりできないと考えておりますので、文化会館を改修して使っていくということを考えますと、ほかの場所にまた図書館と一緒にホールをつくるかという、少しお金がかかり過ぎるだろうというように考えておりますので、ホールは難しいと思っています。ただ図書館と何か、そのギャラリーとかですね。何か複合的な施設を連携できないかということも含めて検討しております。

(○坂本会長)

ありがとうございます。ご質問はございませんでしょうか。新図書館ができるだけ早くできることを願って。

それでは、3番の「その他」まで終わったということでよろしいですか。

それでは、大きな4番になりますので、事務局にお返しいたします。

4 その他

特になし。

5 閉会（久保田大迫図書館長兼花巻図書館副館長）